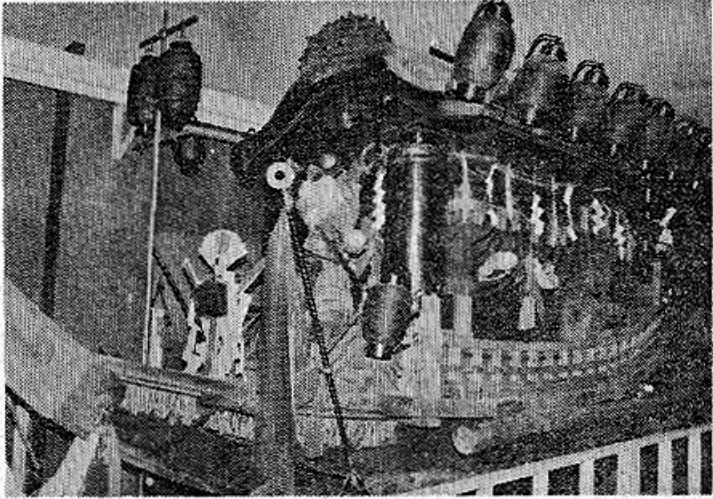


# これが「御座船地車」

市立 博物館 きょうから一般公開

貴重な民俗資料として年々江区  
の町会から市立博物館（東区馬場  
町、大阪城内）へ寄贈された「御  
座船地車」（きざねだまじり）  
が、十五日から同博物館二階の民  
俗展示室で一般公開される。昨年  
九月に寄贈されたものの、大衆通



きで誤り込みがあったが、この後  
と経路地いとおなじり大工さん  
に依頼、解体して張り、屋外まで  
張立て直した。  
この「御座船地車」は、住江  
区安立三丁目町会に、約二百年  
前から伝わるもので、二十五年  
前まで町内の若松神社の秋祭りで、  
若松男子が曳いて歩いた。  
長さ六尺、高さ四尺、幅三、五  
の巨大な地車。江戸時代の寛政年  
間に、地車大工と船大工の合作で  
製作されたらしく、がっしりして  
た徳造で、意匠、彫刻もみごと  
い。安立町は住吉大社の氏子地域  
で、海神住吉大社によさむし、雄  
姿を誇っている。  
大正七年の秋祭動の時には、一  
時、淡路島の洲本に売却されたこ  
ともあったが、昭和七年再び買  
戻され、堺・大浜海岸に飾りつけ  
された。町内の若者たちが、お祭  
を曳いて帰ったというエピソード  
も。昭和十年に大阪城で開かれ  
た市主催の「郷土神社展覧会」で  
第一位の表彰を受けた。  
戦後、交通事情が激しくなり、  
二十五日ごろから曳行できず、神  
社の取納庫に保管されたままにな  
った。

市立博物館には、約三千五百点  
の民俗資料が寄贈されているが、  
地車は、羽曳野市の菅田八幡宮の  
「藤地車」とこの「御座船地車」  
の二隻だけ。十五日から二二まで  
て展示される。